

第12回日本運動器理学療法学会 学術大会 記事

運動機能科学領域 今井 亮太

2024年9月14日から15日にかけて、横浜で開催された「第12回日本運動器理学療法学会 学術大会」に参加しました。本学術大会では、運動器理学療法に関する最先端の研究や技術的な進展について、国内の多くの専門家が発表を行い、実りある議論が展開されました。私も以下の役割を果たしました。

1. 演題発表

「術後遷延性疼痛の予後予測モデルの検討」というテーマで口頭発表を行いました。本研究では、人工膝関節全置換術（TKA）後の患者における術後遷延性疼痛（CPSP）のリスクを予測するモデルを構築し、術後の痛みの進行と予測の関連性を検討しました。発表では、主に術後の疼痛データを基にした統計解析を通じて、予後予測の有効性を示し、今後の臨床応用に向けた可能性について言及しました。質疑応答では、予測モデルの実際の臨床での活用方法に関して多くの質問をいただき、今後の研究に向けた有益な意見を得ることができました。

2. シンポジウム「科学から技術へ」の司会

シンポジウム「科学から技術へ」にて司会を務めました。このシンポジウムでは、科学的研究成果をどのように実際

の治療技術へ応用するかがテーマとなり、運動器理学療法における最新技術の適用例が発表されました。登壇者による膝関節のデジタルバイオマーカーや筋骨格シミュレーション解析の事例紹介は、科学と技術の連携が理学療法にどのように貢献できるかを示すものであり、活発な議論が交わされました。私は進行役として、各発表者の意見が円滑に共有されるよう努めました。

3. クロージングシンポジウムの司会

学術大会最終日には、クロージングシンポジウムの司会を担当しました。シンポジウムでは、第12回学術大会の成果を総括し、次年度以降に向けた今後の研究課題や展望が議論されました。参加者からは、学術大会全体での議論や発表を踏まえ、運動器理学療法の発展に向けた具体的な提案が多数寄せられました。

今回の学術大会の参加を通じ、運動器理学療法に関する最新の知見を得ると同時に、他の参加者との有意義な意見交換ができたことは、非常に有益な経験となりました。今後の研究活動においても、今回の学術大会で得た知見を活用してまいります。